

# 国際バカロレア・ディプロマプログラム「知の理論」の エッセンスを取り入れた授業を受けた学習者の批判的思考態度への影響

## —高等学校英語授業の実践を踏まえて—

教科教育・特別支援教育プログラム 言語・文化・社会グループ

門田 知哉

### 1. 問題と目的

グローバル化が進んでいる社会の中で、文部科学省は国際バカロレア機構 (International Baccalaureate : 以下、IB) が提供するプログラムに注目し、2020年度から「文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム報告書」を通して IB の教育効果に関する研究を重ねてきた。2021年度に公開された井田 (2022) の「令和3年度 IB の教育効果に関する調査研究事業」では概念を用いた指導方法や生徒中心の学習スタイルについて明らかにされ、IB が提供するプログラムについての授業実態について共有されている。

しかし、IB が提供しているプログラムの1つであるディプロマプログラム (Diploma Program : 以下、DP) には知の理論という IB の特色とも言えるカリキュラムが編成されており、この知の理論の学習とそのエッセンスが日本の一般の高校生に対してどのような影響を与えるのか、そして日本の教育とどのように関わることができるのかについての研究はいまだ十分とは言えない状況である。また、IB の教育手法が有効かどうかについて検討するにあたって CLIL の内容言語統合型学習をも比較対象とし検討を行う。IB の TOK や CLIL の教育方法の特徴として思考の育成が挙げられ、批判的思考の向上が期待されるため、これらを通して学習者の批判的思考態度の変化があるかどうかについて検討を行う。

そこで、本研究では一般の高等学校で IB の知の理論をエッセンスに加えた教科教育を参考にした英語授業を考案し、その授業を受けた一般の高校生の批判的思考態度がどのように影響したかについて、従来の英語授業、CLIL、IB の3つの教育手法を取り入れた授業を比較し検討を行う。

RQ: 英語の検定教科書を活用しながら IB の知の理論

(TOK) のエッセンスを取り入れた教育手法を高等学校英語授業に対して実施することにより、学習者の批判的思考態度に影響はあるのか。

### 2. 研究方法

#### A) 研究実施対象者

授業実践校の生徒は元々 IB のプログラムの履修を希望して入学しておらず、県立高等学校での学習をおこなっている。2022年度から高等学校では新学習指導要領に基づいた学習が実施されており、研究実践対象者となる1年生はルーブリックを活用したパフォーマンステストやライティング活動を積極的に行っている。本研究ではそのような1年生を対象に授業実践を行い、生徒の批判的思考態度にどの程度影響があるか調査を行う。

#### B) 調査内容

平山・楠 (2014) が作成した批判的思考態度尺度を使用し、本授業の感想等を書く自由記述欄を設けたアンケート調査を Microsoft Forms で実施した。批判的思考態度尺度では「1、あてはまらない」-「5 あてはまる」の5件法で調査を行った。この尺度は「論理的思考への自覚」、「探究心」、「客観性」、「証拠の重視」の4つの因子で構成されている。研究を実施する最初の時間と、最後の時間とで事前調査と事後調査を行い、生徒の批判的思考態度に影響があるかどうかについて検討を行う。自由記述欄に関しては、研究授業の最後の時間に行い、学習者が受けた授業について率直な感想を記載してもらった。

#### C) 使用教材と指導計画の設計

本研究では、研究実施校で取り扱っている検定教科書「APPLAUSE Communication English I (開隆堂)」

## 教育学的論文要旨

を活用した授業を行った。本研究の研究調査に要する時間数は3クラスの中で各クラス2時間を用意でき、各クラス1年2学期の前期で行った単元「Evolving Airplane」のまとめとしての2時間として設計した。

### 3. 結果と考察

本研究では、3つの教授法である①従来型のグループワークを行う授業、②CLILを模倣としたライティング活動を行う授業、③IBの教育手法を取り入れた授業を行い、単元の中でのまとめとして、それぞれのクラスでどの程度、学習者の批判的思考態度に影響するのかについて目的とした。

#### A) 教育手法と批判的思考態度尺度の尺度得点との関連

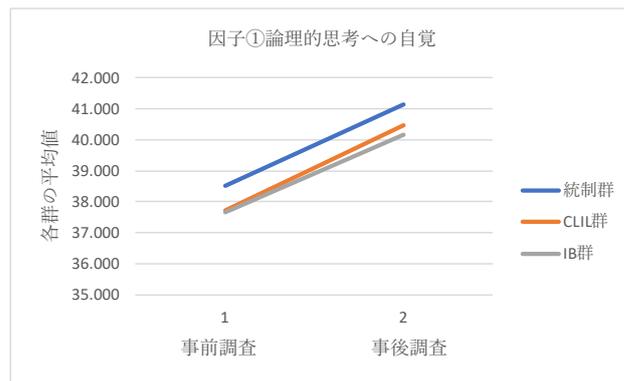
3つの教育手法と批判的思考態度尺度の全体の尺度得点との関連を検討したが、有意差は認められなかった。批判的思考態度尺度の全体の尺度得点のみの変化を見た時に、授業時間と授業内容では学習者の批判的思考態度が影響しづらい状況にあったことが示唆され、学習者の批判的思考態度にあまり影響しなかった可能性がある。赤塚(2017)の研究では1年間の指導計画の中で、説得型のプレゼンテーションやライティング活動をインターネットの動画教材や記事等を活用しながら学習取り組むIBの外国語科目の教育手法を参考とした授業を展開した。それらを通して、学習者が高度な思考スキルをはじめとする多くのスキルが伸長していることが報告されている。今回の研究の授業数と赤塚(2017)の研究では授業数に差があるために、ある程度の時間数の確保が必要であると考えられる。次に批判的思考態度尺度の因子ごとの因子得点を求めて関係を見ていく。

#### B) 批判的思考態度の因子の平均値の変化

批判的思考態度尺度の4つの因子得点ごとに事前調査と事後調査の平均値にグループごとに差がないかを2要因分散分析で検定した結果、第1因子の「論理的思考への自覚」の時間要因にのみ有意差( $F(1,92)=23.433, p=.000$ )が見られ、従来の教育手法、CLIL、IBのそれぞれの教育手法で学習者に「論理的思考への自覚」が高くなったことが分かった。また、他の因子に関してはどの要因でも有意差は見られなかったが、平均値のみを比べてみるとIBの教育手法については他の教育手法に比べて減少傾向にあった。これはつまり他の教育手法

は、比較的現在の検定教科書に親和的な教育手法であること、また、これまで多くの研究や実践が行われていることが平均値の上昇に影響があるのではないかと示唆されるが、IBの教育手法を検定教科書に使用することについては、まだ発展途上の段階にある。今後、実践を重ねていくことによって学習指導要領の中で組み込まれたIBの教育手法が洗練されていく可能性がある。

図1 第1因子「論理的思考への自覚」の事前と事後の平均値の差



### 4. 生徒の自由記述から見るIBの教育手法の可能性

IBの教育手法を受けた学習者の授業の感想として、物事のつながりについて自覚をしていたり、思考のつながりについて自覚したりしているような記述が多数見られ、論理的思考への自覚がより高くなっていることが見受けられた。IBの教育というのは、生徒自体に自分で考えを巡らせて、その考え自体をどのように論理立てて創造していくかがとても重要な視点となってくるために今後の教育には必要な教育手法の一つとなってくるであろう。

### 5. 教育的示唆

今回の研究を通して、IBのTOKの教育手法を取り入れた教科教育の授業を展開することが、今後の高等学校における教育の中で、生徒自身が思考力について考え自ら思考のつながりを考える授業の展開を教員自身が構築していくことが期待される。

### 6. 主な文献

赤塚祐哉(2017)「国際バカロレア・ディプロマプログラム『言語B』の教育手法を参考とした授業を受けた学習者の意識 -一般の高等学校でのモデル構築に向けて-」国際バカロレア教育研究 創刊号